

地域ケア推進会議

鹿児島市地域包括支援センター 上町

【計画】

作成担当者： 高橋 優子

開催日時	平成30年12月07日 14:00 ~ 15:30	開催場所	清水公民館
参加者	民生委員児童委員協議会 会長：3人、まちづくり協議会 会長：3人、看護小規模多機能事業所：1人、居宅介護支援事業所：1人、特別養護老人ホーム：1人、地域包括支援センター職員、地域包括支援センター職員		
	総数 9人		
内容	テーマ	(1) 上町地区での介護予防の推進について (2) 第2回介護予防・生活支援サービス事業所協議会の報告	
	目的	「地域包括支援ネットワークの構築」「地域課題の共有」「地域づくり、資源開発」	
	概要	(1) 上町地区での介護予防の推進について、第1回地域ケア推進会議で協議内容について確認し、前回協議でできず残された課題「参加できる場を増やすために必要なこと、必要なものは何か」「集まりの場や高齢者が参加できる場を持続させるために必要なことは何か」について意見交換し、今後の方針につなぐ。 (2) 第2回介護予防・生活支援サービス事業者協議会の報告について藤澤コーディネーターより説明。第2回協議会で出された意見と市の見解について説明を行い、意見交換行う。	

【結果】

開催日時	平成30年12月07日 14:00 ~ 15:30	開催場所	清水公民館
参加者	民生委員児童委員協議会 会長：3人、まちづくり協議会 会長：3人、看護小規模多機能事業所：1人、居宅介護支援事業所：1人、特別養護老人ホーム：1人、地域包括支援センター職員、地域包括支援センター職員		
	総数 9人		
内容	<p>(1) ①前回会議でた課題を「人的」「内容」「場所」「移手段」「その他」のカテゴリーに分け委員へ提示、確認する中で新たな意見もらう。</p> <p>【名山校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月中旬に実施した校区社協主催のバス旅行は大盛況だった。人を集めるには仕掛けとお金とロコミが必要。 ・施設を借りて実施しているよかよか体操は参加人数減っている現実がある。 <p>【清水校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お達者クラブでは、参加人数減少傾向であったが、最近校区内の施設入居者も参加するようになり参加人数が増えてきている（施設CMの提案）。 <p>【大竜校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に社会教育研究会の中で実施した「いごてだまレディース大会」は大盛況だった。校区内の企業に協力してもらうことで経済的負担の軽減にも繋がる。スポーツ推進員（上町地区は多い）との連携は大事。 ・介護予防は運動だけではない。いごてだま大会等に出ることが社会参加の機会になり介護予防につながる。 <p>(2) 「参加できる場を増やすために必要なこと、必要なものは何か」「集まりの場や高齢者が参加できる場を持続させるために必要なことは何か」については、前回会議で出た内容をグループ分けし、『ニーズを知る』『集いの場所、送迎、経費支援』『集いの活動内容』『リーダーの必要性』に分け、それぞれの解決策等について意見交換し、『集いの場所』『経費支援』『集いの活動内容』『リーダーの必要性』について具体的な意見が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●『集いの場所』・・・施設の空き会議室等場所の提供可能、デイサービス終了後（夕方以降）町内会へ場を提供する方向で実際に話しが進んでいる地域もある。 ●『経費支援』・・・まちづくり協議会の構成団体となっている企業との連携図りスポンサーとなってもらう。 ●『集いの活動内容』・・・北海道物産展等はどうにかして行っている現実がある→地域でも同様のことをできれば高齢者が集まるのでは？サービス事業所も出張講座、レクなど色々できることがあるため、事業所も参加することで内容も充実し、活性化する。事業所は地域貢献したいと強く思っているが繋がる方法手段がない（→マッチング役を担う機関が必要）。 ●『リーダーの必要性』・・・人材育成は必須。仕切ってくれる人いないと一人の負担大きい（→企業が参加してくれると負担軽減にもなる）。まちづくり協議会との連携。子どもの頃から地域行事に参加することが未来のリーダーへ繋がる。 		
今後の課題など	①地域と事業所の繋ぐ（マッチング）役割をどうすすめるか。②実際に地域と事業所と協力して立ち上げた集まりの場の紹介（どのように立ち上げたか、良い点、困難だった点、現在の課題など）。		